

## 製品名: サイクリン D1 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21529

研究使用のみ

### 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

### 応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:34kD;Observed MW:36kD

### 抗原情報

遺伝子名	CCND1
別名	CCND1;BCL1;PRAD1;G1/S-specific cyclin-D1;B-cell lymphoma 1 protein;BCL-1;BCL-1 oncogene;PRAD1 oncogene
遺伝子 ID	595.0
SwissProt ID	P24385
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

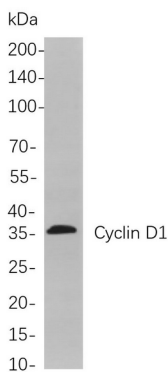
### 背景

細胞局在: 核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細

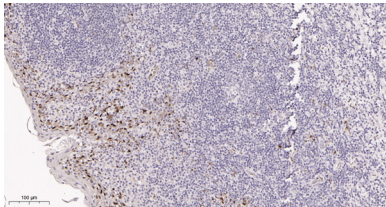
胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性を特徴とする。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK4 または CDK6 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能する。CDK4 または CDK6 の活性は細胞周期の G1/S 遷移に必須である。このタンパク質は腫瘍抑制タンパク質 Rb と相互作用することが示されており、この遺伝子の発現は Rb によって正に制御されている。細胞周期の進行を変化させるこの遺伝子の変異、増幅、過剰発現は、様々な腫瘍で頻繁に観察されており、腫瘍形成に寄与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

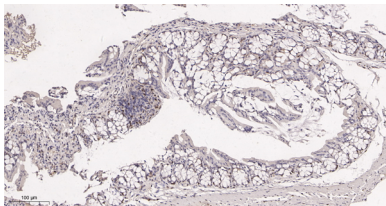
## 画像データ



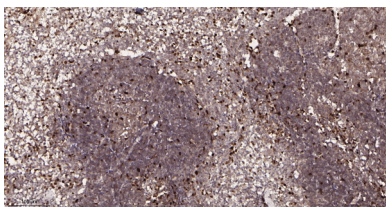
マウス脾臓細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (Cyclin D1 Rabbit mAb 使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



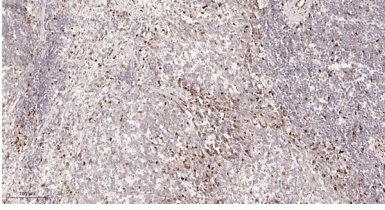
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン D1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン D1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン D1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン D1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。